

富士山周辺の地殻変動*

Crustal Deformations around Mt. Fuji Volcano

国土地理院

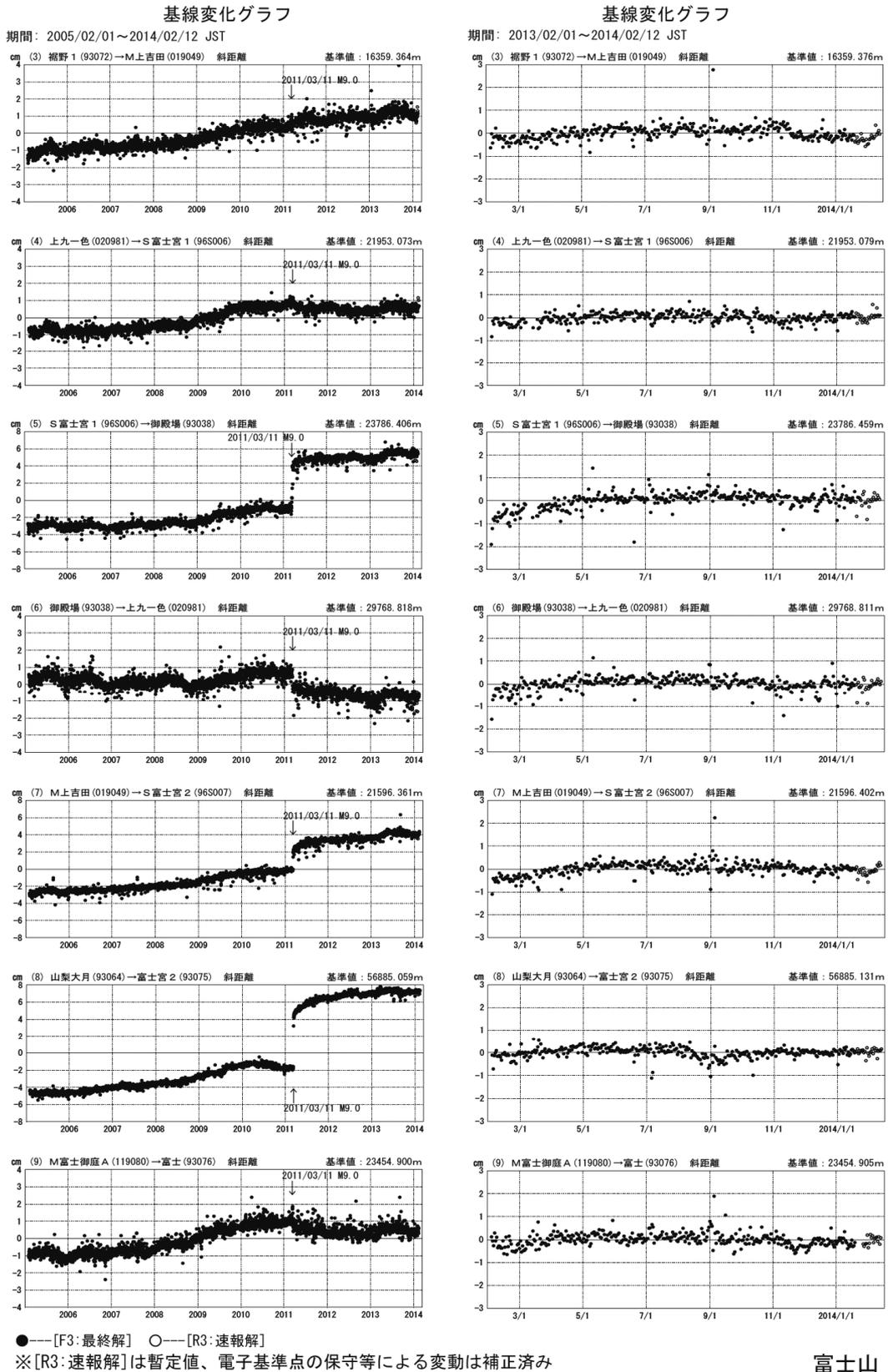
Geospatial Information Authority of Japan

第 1 図、第 2 図は、富士山周辺における GEONET による GNSS 連続観測結果である。第 1 図上段に富士山を取り囲む基線の配置を、第 1 図中段に観測点の保守の履歴を、第 1 図下段と第 2 図にそれぞれの基線における辺長変化の時系列を示した。第 1 図下段及び第 2 図の時系列では、左側に最近約 9 年を、右側に最近約 1 年を拡大して示してある。2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震および 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震に伴い、いくつかの基線で変化が見られるが、地震断層モデルから想定される広域的な変動パターンとおおむね整合している。最も距離の長い(8)「山梨大月」 - 「富士宮 2」では、余効変動の影響も見られるが、次第に減衰している。ほとんどの基線で、2013 年 3 月頃からわずかな伸びの傾向が見られていたが、6 月下旬頃から一部の基線で鈍化・停滞し、12 月頃までに縮んでほぼ元に戻った。2008 年後半頃から 2010 年初め頃まで富士山を北東 - 南西方向に横切る基線で小さな伸びが観測されていた。今回の伸びはそれより小さく、より多くの基線で見られている。過去の時系列を遡ると、富士山を囲む基線には、年によって季節変化が見られることがある。1 月頃から 7 月頃まで伸びて、7 月頃から 12 月頃まで縮んで元に戻るといった季節変化である。季節変化が大きいのは 2005 年で、最大約 1 cm であった。2013 年の変化も少し遅れ気味だがそれに似ている。

第 3 図は、富士山周辺の観測点における水平変動ベクトル図である。電子基準点「道志(どうし)」を固定局として水平変動ベクトルを示した。上段は最近 3 か月間、下段は最近 1 年間の変動を示したものである。どちらにも膨張性のベクトルは見えない。

第 4 図は、富士山周辺で実施している全磁力の観測結果である。火山活動と関連するような特段の変化は見られない。3 月頃から増加するような変化は年周変化である。

* 2014 年 3 月 28 日受付

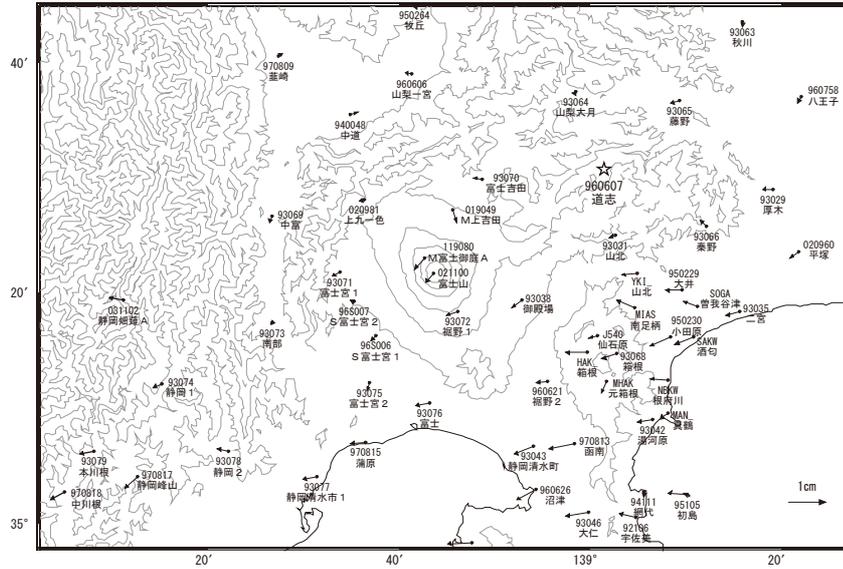


第2図 富士山周辺の電子基準点における GNSS 連続観測結果(基線長時系列 左列:2005年2月~2014年2月、右列:2013年2月~2014年2月)

Fig.2 Results of continuous GNSS observation at GEONET sites around Fuji Volcano; Time series of baseline length; (left) from February 2005 to February 2014, (right) from February 2013 to February 2014.

富士山周辺の地殻変動（3ヶ月）

基準期間：2013/10/09～2013/10/18 [F3:最終解]
 比較期間：2014/01/09～2014/01/18 [F3:最終解]

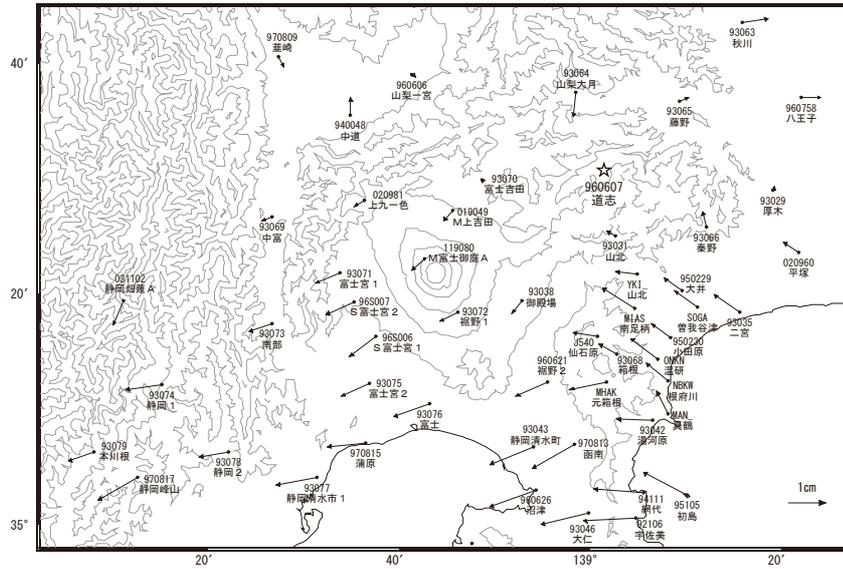


☆ 固定局：道志 (960607)

国土地理院・気象庁・神奈川県温泉地学研究所

富士山周辺の地殻変動（1年）

基準期間：2013/01/09～2013/01/18 [F3:最終解]
 比較期間：2014/01/09～2014/01/18 [F3:最終解]



☆ 固定局：道志 (960607)

国土地理院・気象庁・神奈川県温泉地学研究所

※ 電子基準点の保守等による変動は補正済み

富士山

※ 図中「仙石原 (J540)」は気象庁の観測点、「山北 (YKI_)」、「元箱根 (MHAK)」、「箱根 (HAK_)」、「南足柄 (MIAS)」、「曾我谷津 (SOGA)」、「酒匂 (SAKW)」、「根府川 (NBKW)」、「真鶴 (MAN_)」、「温研 (ONKN)」、は温泉地学研究所の観測点である。

第3図 富士山周辺におけるGNSS観測点の水平変動ベクトル図（上段：2013年10月～2014年1月、下段：2013年1月～2014年1月）

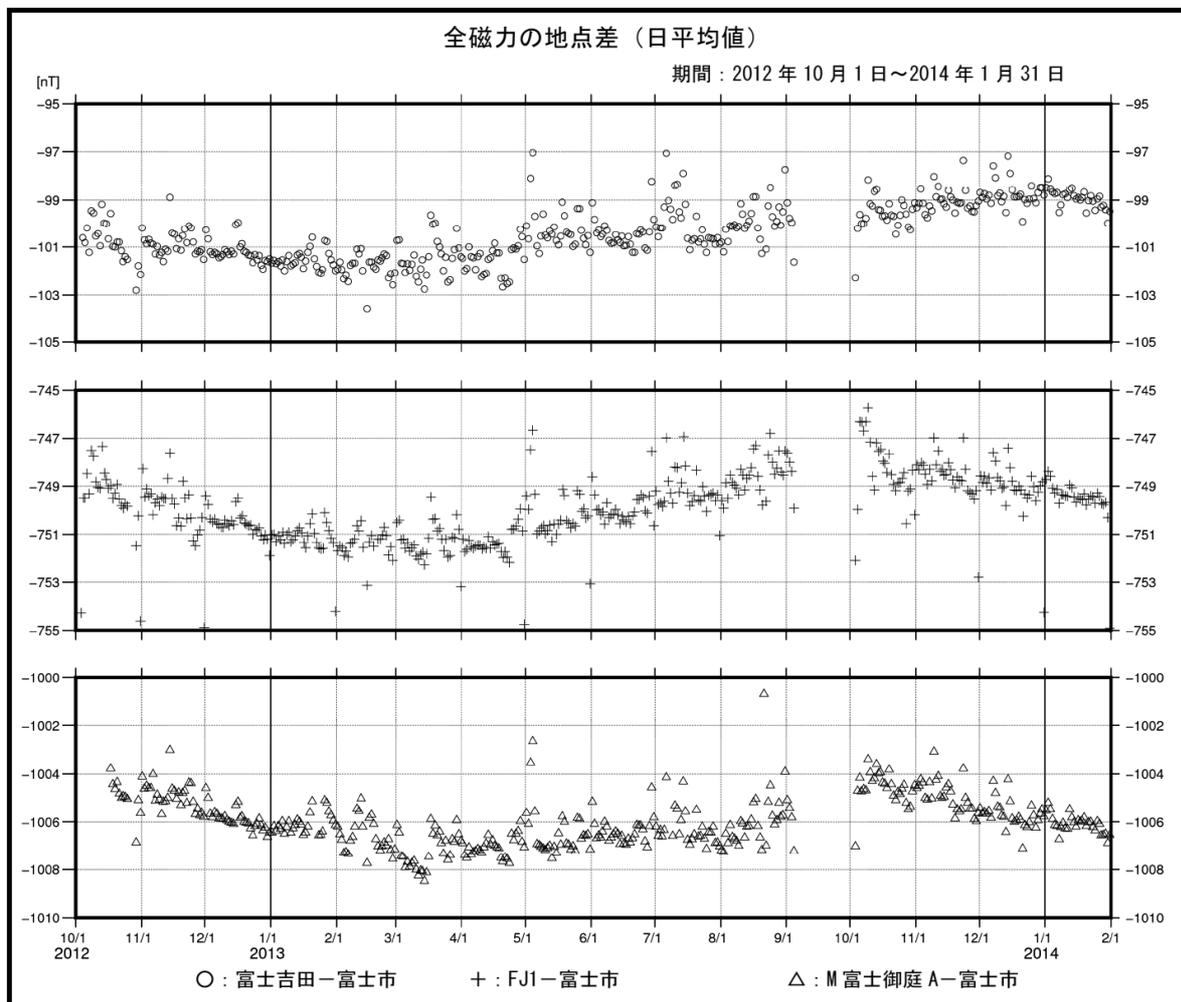
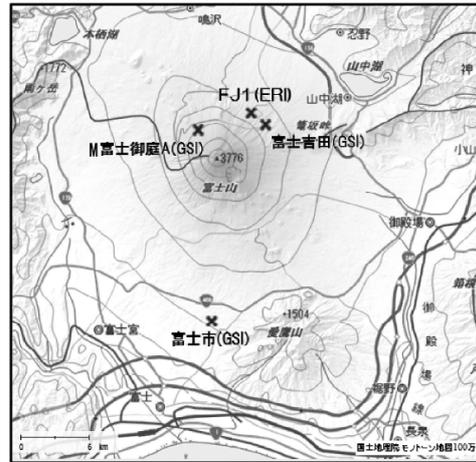
Fig.3 Horizontal displacement of GNSS stations around Fuji Volcano; (upper) from October 2013 to January 2014, (lower) from January 2013 to January 2014.

富士山における全磁力連続観測結果

富士山の火山活動に伴う地磁気の変化を把握するため、国土地理院では「富士吉田」観測点、「富士市」観測点、「M富士御庭A」のGNSS火山変動リモート観測装置において、東京大学地震研究所では同様に「FJ1」観測点において全磁力連続観測を実施している。

「富士市」観測点を参照点とし、これらの全磁力連続観測から得られた観測点間における単純な地点差（日平均）の推移を以下に示す。

FJ1-富士市の地点差をはじめとして、2012年10月から2013年10月をピークとして見られる周期的な変化は、毎年同様に見られており、年周変化と考えられる。なお、「富士市」観測点は2013年9月5日から10月2日まで、電源故障のため欠測している。



富士山

第4図 富士山における全磁力連続観測結果

Fig.4 Observations of geomagnetic total intensity around Fuji Volcano.